

E.S.S.発展の方途(私案)

(I) 基本方針

1. E.S.S.の組織は下から積み重ねて作り上げる
2. その中核を"regional bloc"(嘗ての district club)と"branch"の活動におく
3. 組織より活動そのものを第一義的とし最少の役員と組織に止める
4. bloc & branchの"self government"を原則とすると共に之等の organic unityを保ち leadershipの確立を期する
5. O.B.は常に"共に学ぶ"という態度で活動に参加する
6. 現役から要望のあつた O.B.の組織化は行はない
7. 現役は O.B.の Question Club 及 Industrial Survey Clubに積極的に参加する

(II) 第一段階

all-out developmentは望まず 徐々に"景氣の回復を因る"第一段階として"regional bloc"を漸次設けて1年からO.B.に至る迄の horizontal relationsを円滑にする 取極えず阪神沿線在住会員を以て Hanshin Blocの活動に下記により開始する

記

第1回会合 日時: 7月18日(木) 7.00~9.00 P.M.

場所: 尼崎市東楠木町8 上野陽君宅

参加者: O.B.-上野陽(28年卒) 竹村博夫(28年卒)

鈴木登(29年卒) 三好宜治(30年卒)

現役-阪神沿線在住会員1年~4年全員

(其他希望者歓迎)

方法: 現役がテーマを定め簡単な discussion の練習をする。テーマは澤田専治君が上記 O.B. 現役会員に通知する。テーマの通知を受けたらそれに

ついで必ず自分の考へをまとめて report を作って来る(これは絶対不可欠の条件である)

其他: 会合回数は1ヶ月/回とし集會場所はメンバー宅を提供する(但し集會場所になつたメンバー宅では一切接待をしない様にする)

連絡方法等は上記会合席上決める

O.Bは勤務の都合とO.C., I.S.C.の方にも責任があるの負担にならぬ様上記4名が2組位に分れ各自隔月に出席する事を考へる必要がある

(II) Regional Blocの目的

1. メンバー宅を巡回する事により家庭的な *climate* を作る
2. 1年からO.B迄の各 *class* が参加する事により平生離れて居るメンバーが共に学ぶ機会を作り、学部、学年、校舎の区別をなくして交る
3. 1~2年は基礎練習の爲、3~4年は後輩を指導する実力と方法を身につけるという気持ちで参加する
4. O.Bは卒業後ともすれば後退し勝つた実力を維持発展させる爲に此の機会を利用する。テーマについての *preparation* 及び *assignment* は完全に行う様努力する。O.Bは之を平先重範の如く
5. 事務的な事は現役が担当しそれを通じて *group activity* の方法を習得する
6. 会合では一切日本語を禁ずる事により *think in English* の習慣を養う

(III) 才二段階

才二段階として *Hankyu Bloc* を作る。すべて *Hanshin Bloc* に準ずるが *Bloc* の運び方や活動方法は自主的に決める。*Hankyu Bloc* にはO.Bとして丹羽、木村、是則、堀江、小野澤等の諸君が参加される事を望む。これは阪急沿線在住会員たる高畑君(才二記)O.Bの誰かと *contact* をつけて適当な時期に活動を始める事が望ましい。但しO.Bは前述の如く可成り負担にならないから。

以上の諸見が輪番制で出席されればよいと思う

Osaka Bloc については後日の問題とする

(V) E.S.S. の運営について

過日高畑、池田君等が拙宅に来訪の節組織等の問題につき御質問ありましたが其節に答へた事に加え御参考迄に下記の如く suggest します

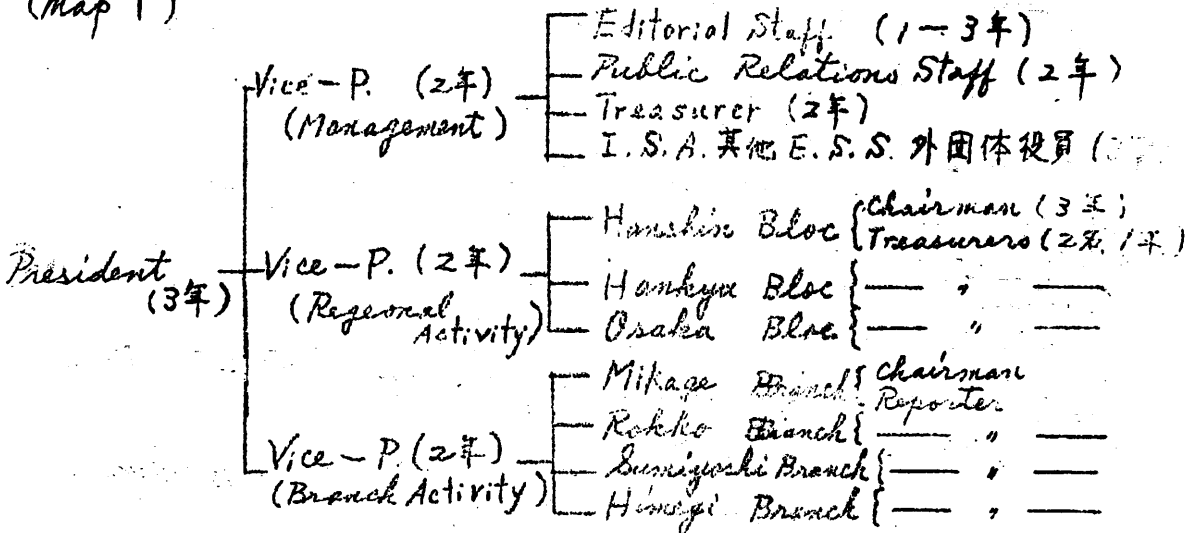
1. E.S.S. では会員数の如何を問わず役員は 4 名で充分である。機構や役員数を過大にすると事務的な事に追われ肝心の日常活動が停滞する
2. Vice-pres. は必ず特定の仕事を持つ可きである。単なる pres. の代理という意味なら設けぬ方がよい
3. 会員数の多い場合や branch 等の分れて居る場合は出来るだけ運営を decentralize する。branch 及び regional bloc の如き sub-group にしっかりした leader をおいて日常活動 information の徹底、会費の徴収等万事此の下部組織を通じて行えば能率的で役員の手務量も非常に減る
4. 会計は寄附自治会予算等不安定な収入に依存せず必ず会費のみで賄う。regional bloc 単位で会費を徴収すれば、年から O.B 全員が支拂える。各 bloc で集った会費の一部は当該 bloc の自由裁量で支出し他は中央に引渡す。中央ではこの fund を 2 つ以上の sub-group に関係ある行事の爲に予算をたてて支出する。テキスト代等は各 bloc が自由に使える fund の中から出す方がよい。会費の用途は常に明確に示す事
5. 役員と会員の両が遊離してはならない。その爲には
 - ① sub-group の責任者は常に会員の動向 group 活動の浮沈に留意し思わしからぬ変化があれば早く手を打つ
 - ② sub-group 責任者は定期的に集って会員に対するコーチの方法等を研究討議し常に innovation を導入する

- ③ 役員は互手上的に打合せに多くの時間を費す事なく各役員が自分の担当する分野に於て自由奔放に計画を進め問題を処理する。但し各 sub-group 責任者を通じて生される会員の意見と常に顧慮する事
- ④ 役員は決して専横小使ではない、彼らは全員に対するよき奉仕者であると共に全会員の先端に立つ指導者であり又対外的には可能な外交官でなければならぬ
- ⑤ 会員には役員を逆ぶ権利があると共に役員に協力する義務がある。大いに意見をたがわす事は必要である。併し協力すべきは協力し役員に対し全員一致の support を与へよ。下級生が president になつても上級生は彼に協力を惜しまず 大にへ president であつても sub-group の活動ではその指導者たる上級生に従ひ常に会全体の人間的秩序をキバキある
- ⑥ 会員は自分の事はかりを考えず常に会全体の事を考へて貰いぬ。利己主義は団体生活の最大の敵である。自分の持つ時間と能力に応じて各自が会にさややかな奉仕をするならば会員は單に英語の英のみでなく思わぬ貴重な収穫を得る事出来る。 "A bank can give you the same amount of money, as you deposited there. How much you get back from your society depends on how much you put in it" — (E.S.S. 設立1周年記念に際しての Prof. Smith の挨拶の一節)
- 友愛と奉仕 — これこそ小生が E.S.S. 在会当時最も感動を受けた伝統的精神であつた

(IV) 組織の一例

(嘗て E.S.S. が最も活潑であつた時の model case に基く)

(Map 1)



註 1. 地域別 校舎別の二つの sub-group の組合せを中校とする

2. 1~2年: management の三休

3年: bloc の leader 対外活動の代表 後輩の指導

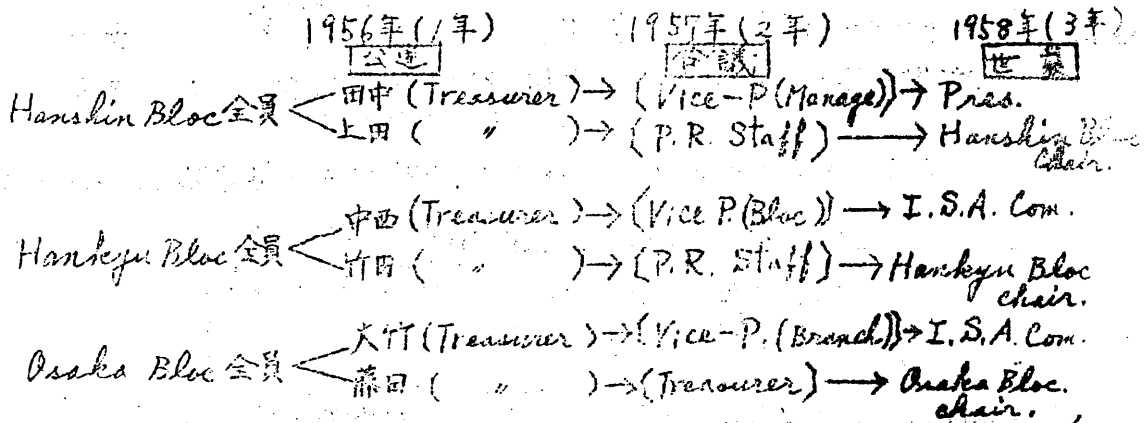
4年: O. B. の主催する活動 (I. S. C. に参加し卒業前の準備をする)

3. P. R. は Staff は O. B. の運営 国際会議. 講演会, Bible Class Inter-collegiate program の運営

4. Vice-P (Branch): 校舎内の委員会行事

5. " (Bloc): 地域内の交流. 合同行事

(Map 2. 一選挙方法の実例 = "公道" と "世襲" の折衷)



毎年新入会員 (1年) の中から各 bloc で互選により2名の Treasurer に選ぶ。この部分だけが公道方式である

毎年1年は2年V. 選級する。時々 bloc Treasurer 2名の内1名宛計3名は必ず Vice-P に他の2名は P.R. かな全体の Treasurer にする。この新選級は Treasurer 6名の間で決める

2年からの3年V. 必ず Vice-P (Manage) は自動的 V. Pres. になる。他の2人の Vice-P. は I.S.A. 等外団体での仕事をする P.R. と Treasurer の3名は夫々自分の本身 bloc の Chairman になる

各 Branch 全員 ⇒ { Branch Chairman
Reporter → (翌年には Ed. Staff になる) → Ed. Staff